

週刊 タバコの正体

タバコを何十年も吸い続けると、かなり高い確率で病気になります。それも、1週間や2週間で治るような軽い病気ではありません。先週勉強したように、生命をおびやかす“ガン”に侵されてしまうと、手術が必要になることも多く、完治するまでには長い期間がかかります。

その間は入院生活を送る人、通院しながら自宅療養する人など、いろいろなケースに分かれるでしょうが、治療費は相当な額になると予想されます。例えば「がん治療費.com」サイトによると、肺ガンで腫瘍を切除する手術を受け、再発防止の抗ガン剤治療を4ヶ月間続けた場合、300万円ほどになるそうです。これは、一般的な目安ですので実際の治療費とは全く違う場合もあるかも知れませんが、入院中の病室費用などを考慮すると、もっと高くなる可能性もあるでしょう。

「へー、そんな病気になるのは、勘弁願いたいね」と思いますよね。

ところが、厚生労働省の平成17年時点の調査によると、ガン患者数は推計で300万人近くもいたそうです。そんなに多くの方がガンにかかるのだったら「なりたくないけど、万一そうなったら大変だ」という事で、働いている大人の多くは“ガン保険”や“生命保険”に加入しています。

毎月いくらかの保険料を払い込んでおくと、ガン治療を受けたとしても、その費用は保険会社が払ってくれるわけです。

ところで、ガンを発症する大きな原因が喫煙であることは、今や世間の常識となってきています。

なので、左の広告のように保険会社としては、ガンになる可能性が高い人には保険料は高く、低い人には安く設定するのは、当然と言えば当然です。

今、タバコを吸ってなくて、なおかつ一生吸うつもりのない皆さんにとっては、「保険料が安くなるなら、ラッキーやん、絶対タバコなんか吸わんとこ」って、思うでしょ。

一旦、タバコに手を出してしまうと、ほぼ毎日410円が必要です。それを50年間続けて700万円以上つぎ込んだあげくに、ガンの治療費に何百万円もかかるのでは、「何のためにタバコを吸ってたのか」と悔やんでも悔やみきれません。